友好都市コーナー

冬ならではの「花巻」満喫しませんか？

新渡戸友好都市 岩手県花巻市

花巻市は「温泉のまち」。市内には、個性豊かな14カ所の元湯があり、それぞれに独特の個性と豊かな風情を醸し出しています。そんな元湯の一つ「南花巻温泉郷」に近接する鉛温泉スキー場（花巻市鉛）の今シーズンの営業が、12月23日からスタートしました。緩急さまざまなコースがある同スキー場は、上級者から初級者まで、自分のレベルに合わせて楽しく滑ることができます。

1月7日(日)にはイベント盛りだくさんの「スキー場まつり」も開催。スキーで思いっきり体を動かした後はのんびり温泉につかる。皆さんもそんな冬ならではの楽しい一日を過ごしませんか。

積雪状況や天候などによって滑走コースが変更となる場合があります。

詳しくは、鉛スキーセンター（☎0198㉕2711 ホームページアドレス http://www.city.hanamaki.iwate.jp/ski/）へ

※温泉についての問い合わせは、花巻市役所本庁観光課（☎0198㉔2111内線289）へ

新渡戸友好都市とは

十和田市開拓の祖である新渡戸傳は、岩手県花巻市で生まれ、62歳のとき盛岡藩から三本木原開拓を許可され、人工河川工事に着手し、4年後に約11キロメートルの水路（稲生川）を完成させました。その新渡戸家の歴史的な結びつきや、お互いの面積・人口・産業構造などがよく似ていることなどから、平成元年10月10日に「新渡戸友好都市」の提携を結びました。

桂月の文学碑を訪ねて⑨

「四方の木は
みな冬枯れて　ふる雪に
一もと青し　蔦の鉾杉」

この句に出会ったとき、『鉾杉』の表現に親しみを覚えました。鉾は、剣に長い柄をつけたものです。そして、大正時代の蔦温泉の写真に出会って、まさにこの様子を詠んだ歌であると感じました。

桂月は、この杉の樹の形が鉾に似ていることから鉾杉と名付けたようです。蔦温泉へ向かうとき、また蔦温泉滞在中も旅を終えて戻るとき、遠くからこの鉾杉を見て安堵したのではないでしょうか。

樹齢300年ともいわれるこの鉾杉は、現在は頂上が丸みをおびて、周囲の杉の木も成長しその当時とは景色が違っていますが、桂月の名づけた鉾杉は威風堂々とそびえ立っています。

桂月は、紀行文『蔦温泉籠城記』の中に蔦付近の三名木を次のように紹介しています。「…その一は、通天橋の途上に見る大山毛欅なり。その二は、楼前の桂也。本幹中折して、支幹横に繁り、本幹には蔦蘿繁る。平生見ても一奇なるが、紅葉の頃、殊に奇観也。その三は薬師堂の鉾杉也。大さ一抱、杉としては、大ならざれども、一二里四方絶えて常緑樹なき中にあること、て、人の目を惹く。雪中に青々たるに至って、この杉の真価始めて現る、也。」

この紀行文に書かれた情景が歌になっています。

歌碑は、蔦温泉旅館裏手の鉾杉のそばにあります。

(注)通天橋～蔦へ向かう国道103号にある。

(注)楼前～蔦温泉旅館前。

大正時代の蔦温泉（青森県史より）

問い合わせ先
総務課（☎㉓5111内線156）

広報とわだ　平成19年1月1日号（1・15日発行）第48号　発行／十和田市（〒034-8615青森県十和田市西十二番町6番1号　☎0176・23・5111（代表）　編集／総務課　印刷／㈲共立印刷所

R100「広報とわだ」は古紙配合率100％の再生紙を使用しています　PRINTED WITH SOY INK 環境に優しい大豆インクを使用しています